

第266回 令和8年7月7日（火）

「働き方改革は日本人改革」

長時間労働による過労死が問題となり、日本でも働き方改革が進められることになりましたが、諸外国に比べるとまだまだの感が否めません。私たちの世代は「24時間戦えますか」がキャッチフレーズだったので現在の状況でもかなり変わったと感じますが、教育業界をはじめ課題を抱える現場はまだ残っています。

弥生時代から農業が行われてきた日本では「同調圧力」が強い傾向にあると言われています。農業は一人が怠けることで農地が荒れ、害虫の被害や稲の病気が発生します。田植え、稲刈りなどほとんどのスケジュールが一緒なので繁忙期に働かないと目立ちます。そのような文化が今も色濃く残っているような気がします。

元気な時に休んだり、他の人が残業しているのに定時で上がったりにすることに対する抵抗感が依然として強いような気がします。元気な時に休むから免疫が機能します。病気になってから休むと復帰してから完全に復調するまで時間がかかってしまいます。チームにとってはどちらがマイナスになるのかは明らかです。

この日本人の文化を変えない限り働き方改革はできません。なぜ変わらないのでしょうか。

原因の一つに「ロール（役割）の無自覚」があるような気がします。人間は一人でいくつもの「ロール」を持っています。私も職場では校長ですが、家では父親であったり、夫であったり、年によっては自治会の役員であったこともあります。欧米の場合は仕事以外のロールもとても重要視されますが、日本の場合は仕事を最優先しその他のロールが仕事に影響することを責める傾向にあるように思います。

男性の育児休業など以前に比べるとかなり進んできていますが、本来もっと当たり前になるべきだと思います。特に家族には仕事以上に貢献すべき、そのロールができるのは自分しかおらず代わりがないのだと考えるべきだし、社会的にも考えさせるべきだと思います。

私はなるべく定時に上がることを目標に仕事を段取りしています。無理がきかなくなってきた自分の身体のことを考えていることもありますし、家族と過ごす時間を大事にしたいと思っています。

いま3匹の愛犬がいます。愛犬にとっては私たち家族が世界のすべてです。何時間も待っていて、ようやく私が帰るとすぐに外に連れて行ってくれと訴えます。私を出迎える愛犬の感激ぶりには毎回心を打たれます。愛犬のために今日も仕事を効率よく頑張ろうと思います。